

科目分類	専門分野Ⅱ	開講年次・時期	1年次 11月～3月		
科目名	小児看護学概論	単位数	1単位	時間数	30時間
担当講師 (実務経験)	専任教員(小児看護領域臨床 実務経験あり)	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分・100点

◆学習目標

1. 小児に関連する保健医療の動向を学び、子どもと家族を取り巻く環境について理解する。
2. 子どもの成長・発達の特徴について理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	1. 小児看護の目指すところ 1)小児看護の対象 2)小児看護の目標と役割 2. 小児看護における倫理	講義 グループワーク	* 子どもに関するアンケートを行います。
	2・3	1. 小児と家族の諸統計 2. 小児看護の変遷 3. 小児看護の課題 4. 子どもの成長・発達 1)成長・発達とは 2)成長・発達の進み方 3)成長・発達に影響する因子 4)成長の評価 5)発達の評価	講義 グループワーク	* 小児と家族の諸統計に関するまとめプリントを配布します。
	4・5	小児看護で用いられる理論	講義 グループワーク	
	6～9	小児各期の成長と発達 ・新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期	講義・DVD 視聴	* 成長・発達に関するまとめプリントを配布します。
	10	家族の特徴とアセスメント	講義	
	11～13	子どもと家族を取り巻く社会 1. 児童福祉 2. 母子保健 3. 医療費の支援 4. 予防接種 5. 学校保健	講義 グループワーク	
	14	グループワーク発表	グループワーク発表	
	15	試験		

◆教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①:医学書院

◆参考文献

- ①小児看護学概論 子どもと家族に寄りそう援助 改訂第2版:南江堂
- ②新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 :メヂカルフレンド社
- ③小児看護学 1 小児と家族への系統的アプローチ 第2版:医歯薬出版株式会社
- ④ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護:メディカ出版

◆成績評価の方法

筆記試験 100点

科目分類	専門分野Ⅱ	開講年次・時期	2年次 4月～7月		
科目名	小児看護学援助論Ⅰ (生活援助技術)	単位数	1単位	時間数	15時間
担当講師 (実務経験)	専任教員(小児看護領域臨床実務 経験あり)	講義時限	14時限	試験時間・配点	45分・100点

◆学習目標

- 発達段階に応じた小児の栄養の特徴について理解する。
- 小児の健全な成長・発達を促進するための子供や家族への援助方法を理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	1. 子どもの栄養 1) 栄養の意義 2) 食事摂取基準 3) 新生児期の栄養 4) 乳児期の栄養	講義 *国家試験出題基準該当箇所 【小児看護学】 3-A-a 栄養と授乳 3-B-a 栄養と離乳	概論で作成した「成長発達のまとめ」を見て、小児各期における成長発達の復習をしておきましょう。
	2	5) 幼児期の栄養 6) 学童期の栄養 7) 思春期の栄養1. 新生児の養育および看護 1. 新生児の養育および看護 1) 日常生活の世話 2) 事故防止 3) 感染防止 4) 家族関係の調整 5) 愛着形成 2. 乳児の養育および看護 1) 日常生活の世話 2) 遊びの支援 3) 事故防止 4) 乳幼児突然死症候群とその予防 5) 育児支援	講義 *国家試験出題基準該当箇所 【小児看護学】 3-C-a 食生活と食育 4-D-a 肥満や食生活の乱れ	
	3	1. 幼児の養育および看護 1) 日常生活の自立と世話 2) 遊びと運動の支援 3) 事故防止 4) 予防接種 5) 生活習慣の改善 6) 育児支援 2. 幼児に起こりやすい事故と事故予防について	講義 グループワーク	
	4	1. 学童の養育および看護 1) 学校生活への適応 2) 学習と遊び 3) 生活習慣病の予防 4) 疾病予防 5) 性教育 6) 安全教育・事故予防 2. 思春期の看護 1) 心の発達への援助 2) 第二性徴に関する援助 3) 思春期の健康教育 4) 生活習慣病予防 5) 日常生活における衛生、健康教育など	講義	

	6)性教育 7)安全教育 8)親へのアドバイス * 保育園実習の事前課題提示 * 次回の演習・グループワークの説明		
5・6	1. 体験学習 ①生活援助(衣服の着脱、オムツ交換) ②調乳・授乳・離乳食体験 (ベビーフードの実際) 2. グループワーク 「幼児に向けた手洗い指導」	演習 (2階実習室で実施) 保育園実習グループに分かれて取り組みます。	
7	「幼児に向けた手洗い指導」 グループワーク／発表	グループワーク	
8	筆記試験		

◆教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①:医学書院

◆参考文献

- ①小児看護学 1 小児と家族への系統的アプローチ 第2版 岡田洋子:医歯薬出版株式会社
- ②小児看護学 2 小児の主要症状とケア技術 岡田洋子:医歯薬出版株式会社
- ③授乳・離乳の支援ガイド 厚生労働省 2007
- ④食に関する指導の手引 文部科学省 2010
- ⑤これならわかる!子どもの保健演習ノート 小林美由紀:診断と治療社
- ⑥イラスト小児の生活援助 木口チヨ他:文光堂

◆本学習の効果と発展的課題

小児看護学概論では、子どもの身体的成長、社会変遷の中での子どもへの施策を理解した。小児看護学援助論Ⅰでは、身体的成長の理解をふまえて、精神運動機能発達の視点で理解する。さらに、成長・発達をふまえた子どもとの向き合い方、家族との関わり方を考えながら、子どもと家族を中心とする看護を学んでほしい。社会的背景から、学生が子どもとの関わりが少ないことを考え、子どもへのイメージをふくらますことができるよう演習を多く取り入れた。本科目を学習することで、保育園実習前の知識・技術を修得し、実際の健康な子どもと関わることで学びをさらに深めてほしい。また、次の小児看護学援助論Ⅲで修得する「健康障害を持った子どもの看護」の基盤となるため、子どもの健全な成長・発達を促す基本となる日常生活について適切な援助の理解をねらいとする。

◆成績評価の方法 筆記試験

科目分類	専門分野Ⅱ	開講年次・時期	2年次 4月～8月		
科目名	小児看護学援助論Ⅱ (疾患に応じた看護)	単位数	1単位	時間数	15時限
担当講師 (実務経験)	医師(小児科勤務)	講義時限	14時限	試験時間・配点	45分 100点

◆学習目標

小児期に特有な疾患をもつ子どもの看護を理解する

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1～14	I. 小児臨床総論 II. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1. 常染色体異常(ダウン症候群) 2. 性染色体異常 III. 新生児の異常 1. 低出生体重児の疾患(呼吸窮迫症候群) 2. 新生児仮死 3. 新生児の黄疸 IV. 系統別疾患 1. 代謝性疾患 2. 内分泌疾患 3. 免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 気管支喘息 4. 呼吸器疾患 急性咽頭炎、クループ症候群、気管支炎、肺炎 5. 循環器疾患 心室中隔欠損、動脈管開存、心房中隔欠損、ファロー四徴症 完全大血管転位症、川崎病 6. 消化器疾患 食道閉鎖症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症 胆道閉鎖症 7. 血液造血器疾患 特発性血小板減少性紫斑病、血管性紫斑病 8. 悪性新生物 白血病、神経芽腫、ウィルムス腫瘍 9. 腎・泌尿器および生殖器疾患 ネフローゼ症候群 10. 神経疾患 11. 運動器疾患 V. 小児特有の感染症 ・細菌感染症 ・ウイルス感染症 ・真菌感染症	講義	
	15	筆記試験		

◆教科書

系統看護学講座 小児臨床看護各論

◆成績評価の方法

筆記試験

科目分類	専門分野Ⅱ	開講年次・時期	2年次 10月～2月		
科目名	小児看護学援助論Ⅲ (状況に応じた看護)	単位数	1単位	時間数	30時間
担当講師 (実務経験)	看護師(小児看護領域臨床実務経験あり) 専任教員(小児看護領域臨床実務経験あり)	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分・100点

◆学習目標

1. 小児期に多い特徴的な症状と緊急時の看護について学ぶ。
2. 疾患や入院・治療が小児およびその家族に及ぼす影響について理解できる。
3. 小児看護に必要な看護技術について理解し、その方法がわかる。
4. 処置を受ける患児に向けたプレパレーションやディストラクションについて考えることができる。
5. 小児の疾患や発達段階に応じた看護過程が理解できる。

回	授業内容	授業方法	学習課題
1	I 主要症状別看護 1. 発育期からみるからだと病気 フィジカルアセスメントと方法 2. 一般状態・啼泣の観察ポイント(腸重責症) 3. 痛みのアセスメントと看護(頭・目・鼻・のど・耳・胸・腹・手足など) 薬剤を用いた・用いない看護	講義	成長発達段階に応じた痛みアセスメントを選択し、看護のポイントを考えられる。
2	4. 呼吸・循環器系の症状の観察と看護 1) 症例から観察及び看護のポイントを深める 小児気管支喘息、敗血症	講義	小児期における呼吸困難の原因を理解し、安楽な看護のポイントを考えられる。
3	5. 発熱の原因と主な疾患の特徴と看護 1) 症例からその特徴を理解する 髄膜炎、脳炎、インフルエンザ、突発性発疹、細菌性食中毒、尿路感染、扁桃炎、単純ヘルペス、ヘルパンギーナ、プール熱、溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎、川崎病	講義	発熱に伴う随伴症状への対応と感染対策が考えられる。
4	6. 消化器系の症状を示す小児の看護 7. 水分・電解質異常を示す小児の看護 ・脱水症状となりうる病態と症状 ・脱水のレベルと症状 ・電解質異常と症状 ・ノロウイルス感染症のアセスメントと看護の実際 8. 浮腫・血液・貧血を示す小児の看護	講義	小児期における脱水の特徴を理解し、看護のポイントが考えられる。
5	9. 神経・筋症状を示す小児の看護 ・けいれんの病態生理 ・各けいれん発作の特徴と対応(強直性発作、間代性発作) 10. その他の症状を示す小児の看護 ・発疹を示す疾患(麻疹、風疹など) ・黄疸のメカニズム、新生児黄疸、光線療法	講義	けいれんの特徴と看護のポイントを考え、対応について家族指導できる。
6	II 看護技術・看護過程 1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 2. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護	講義 DVD 視聴	【国家試験出題基準】 小児看護学 4. A～D、F、H 6. B 7. B. a 8. C. b 8. D

	4) 災害時の子どもと家族の看護		
7	3. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 与薬 2) 輸液管理 3) 検体採取 4) 経管栄養 5) 呼吸症状の緩和	講義 DVD 視聴	小児看護学 5. A・B. c~l 7. B. f
8	4. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術	講義 DVD 視聴	小児看護学 5. A・B. a~b
9	小児看護技術演習	技術演習 グループワーク	
10	5. 小児における疾病の経過と看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護 2) 急性期にある子どもと家族の看護 3) 周手術期の子どもと家族の看護 4) 終末期の子どもと家族の看護 6. 子どもの虐待と看護	講義	小児看護学 7. A. a 7. B. g 7. C 8. A 9. A~B 6. A
11	小児の看護過程	講義	
12	事例を用いた看護過程の展開	講義/個人ワーク	
13	事例を用いた看護過程の展開	グループワーク	
14	看護過程の発表と意見交換	グループワーク 発表	
15	筆記試験		

◆教科書

- ①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①:医学書院
②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②:医学書院

◆参考文献

- ①症状からみた小児看護:メジカルビュー社
②小児看護 2006-8:ヘルス出版
③ここだけは知っておきたい小児ケア:総合医学社
④こどもの病気の地図帳:講談社
⑤小児看護 2010-1:ヘルス出版
⑥小児救急外来診療マニュアル:医学芸術社
⑦小児ケア Q&A:総合医学社
⑧小児救急の落とし穴:CBR
⑨小児看護学 第8版 子どもと家族の示す行動への判断とケア:日総研
⑩新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護:メヂカルフレンド社
⑪チームで支える!子どものプレパレーション:中山書店
⑫小児看護 ケアモデル実践集 看護師が行う子ども目線のプレパレーション:へるす出版
⑬プレイ・プレパレーション導入・実践の手引き:日総研
⑭写真でわかる 小児看護技術:インターメディカ

◆成績評価の方法 筆記試験